

令和2(2020)年度

日本特別活動学会 第7回 実践事例募集事業

推奨実践事例

事例番号 7-4

学級集団における生活上の課題を解決する資質・能力を育成する

指導の在り方に関する一考察

～ 生徒の創造的活動とその活用に焦点を当てて ～

(東京都)筑波大学附属中学校

石黒 友一(イグロ ユイチ)

実践テーマ	学級集団における生活上の課題を解決する資質・能力を育成する指導の在り方に関する一考察 ～生徒の創造的活動とその活用に焦点を当てて～
実践区分 ○囲み	学級活動・ホームルーム活動 児童会・生徒会活動 クラブ活動 学校行事 その他(具体的に、)
実践事例の 背景、ねらい、 意義など	近年、グローバル化や人々の価値観の多様性、AI等の飛躍する社会において、これらを超えて協働のできる資質・能力を育成していくことが学校教育における課題の一つとして挙げられる。杉田(2020)は、学級活動において、それらの資質・能力を育成していくためには、「よりよい学級での生活を創っていくためには、何がよりよいものなのかという見通しや現状の問題を見つけ出す力(問題発見力)」、「自分と異なる多様な意見をどのように生かしていくかという知恵を出し合い、いかに合意形成を図っていくかという創造的な活動」が重要であると指摘している。また、学習指導要領においても、「集団や自己の生活、人間関係の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにする」、「自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、集団や社会における生活および人間関係をよりよく形成する」ことが特別活動の目標として位置づけられている。 これらのことを踏まえて、本実践では、生徒の創造的な学び(Creative Learning)を実現する方法の一つであるパターン・ランゲージに焦点を当て、「クラスで気持ち良く過ごすためのコツ」を生徒自身が考え、創りだし、それを活用した実践を通して、多様な価値観を持った学級という集団の中で、よりよいものを目指しつつも、集団として上手くやっていくために必要なことは何なのかを考えることのできる資質・能力を生徒に育成することを目的とする。
実践の時期	平成・令和 2年 4月 ～ 3年 3月

【実践事例】(成果と課題を含む)

1 実践の概要 本実践の概要は以下の通りである。

- (1)HRH(ホームルームアワー)(※1)にて、吉野源三郎著「君たちはどう生きるか」を題材として扱い、自分が主人公であるコペル君のクラスの一員だったときに取る態度や行動等について考えさせた上で、今の自分、クラスに関連づけて、「自分が所属するクラスで皆が気持ちよく過ごすためには、どんなことが必要だと思うか。また、それを実現するために自分に何が出来るか。」をパターン・ランゲージ(※2)で付箋に書かせた。
- (2)生徒それぞれが考えたパターン・ランゲージを模造紙でKJ法を2度用いて分類し、クラス版「気持ちよくクラスで過ごす22のコツ」を創りだした。
- (3)創りだしたパターン・ランゲージを教室の側面黒板に掲示し、日直が朝のHRでその日に意識するコツをクラスに伝え、終礼にてコツを基に1日の振り返りを継続的に行った。
- (4)(3)で行ってきた継続的なコツの振り返りを踏まえて、コツをより実現していくことができるように、創りだした各パターン・ランゲージ「気持ちよくクラスで過ごす22のコツ」に、その実現のために意識すべき【具体的な行動】を生徒に考えさせ、追記する形でパターン・ランゲージの改良を図った。
- (5)(4)で創りだしたコツを日めくり形式にして教室掲示を行い、日々の学校生活で意識させ、その振り返りを継続的に行った。

※1 HRH(ホームルームアワー)

学習指導要領における道徳と特別活動(学級活動)を統合した2時間単位の学習)

※2 パターン・ランゲージについて

元々、建築家クリストファー・アレグザンダーによって提唱されたもので、自分のなかの経験則を体系化した言語である。個々のパターンは、パターン名、パターン・イラスト、状況、問題、解決、結果の形で記述されることを基本としている。本実践では、生徒にパターン名とパターン・イラストによってパターン・ランゲージを創りだす活動を行った。なお、生徒は「家庭学習を進めるためのコツ」というテーマで、パターン名とパターン・イラストによるパターン・ランゲージを創りだす活動を事前に行っている。

2 実践の実際

- (1)(2)HRHでは、本校の出身である吉野源三郎著「君たちはどう生きるか」を題材として、自分が主人公コペル君のクラスの一員だったときに取る態度や行動等について考え、そこから自分たちの日常に関連づけさせた。「自分が所属するクラスで皆が気持ちよく過ごすためには、どんなことが必要だと思うか。また、それを実現するために自分に何が出来るか。」を考える活動では、クラス41人の生徒が合計56個のコツを付箋にパターン・ランゲージとして表した。次に、クラスを2つのグループに分け、個々で考えたパターン・ランゲージを、KJ法を用いて模造紙上で分類し、分類ごとに見だしをつける活動を行った。さらに、2つのグループの模造紙を1つにまとめる活動を行い、それを基に、クラス版パターン・ランゲージ「気持ちよくクラスで過ごす22のコツ」(表1、図1(一部抜粋))を創りあげた。(実施：令和2年11月)

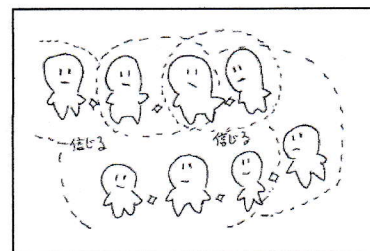


図1：パターン・ランゲージ
「お互い心から信じ合う」
(一部抜粋)

※実際には、表1の各パターン・ランゲージについて図1のようなイラストがそれぞれある。

表1：パターン・ランゲージ「気持ちよくクラスで過ごす22のコツ」

①いつでも明るく、楽しく、ポジティブに。	⑦すぐに賛成せずに違う視点からも見てみる。	⑬相手のことも考える。	⑲一人ひとりの時間や個性を大切にする。
②自分が自分の理想になれるよう努力する。	⑧相手の良いところを見つける。	⑭相手を受け入れる心を持つ。	⑳あからさまな態度をとらない。
③あまり楽観視しないで、注意もするし悲観的にならない。	⑨お互い心から信じ合う。	⑮個人でやるべき事は後回しにする。	㉑皆の個性を把握して、バランスの良い空間を創る。
④どうしたらクラスが良くなるのかアイデアを出す。	⑩考えてから言葉にする。	⑯誠意を持って接する。	㉒意見が対立したら間を取る。
⑤同じことをくり返しそうになったら止める。	⑪相手の気持ちを考えて発言・行動する。	⑰たくさんの人と話す。	
⑥自分の意見を言う。	⑫相手の話もしっかり聞くようにする。	⑱相手の意見をよく聞き、その上で結論を出す。	

(3) 創りだしたパターン・ランゲージを教室の側面黒板に掲示し、週番(1週間ごとの日直のこと)が朝のHRでその日に意識するコツをクラスに伝え、終礼にてコツを基に1日の振り返りを継続的に行った。また、終礼での振り返りは、1日の授業や生活を振り返るためのノートをクラスで作し、記録を取るとともに、週番や生徒がいつでも振り返ることができるように工夫した。この毎日のコツを基にした振り返りの中で、生徒自身が新たな課題を見つけて、それに取り組むための具体的なアイデアが生まれる場面も見られた。以下に終礼での実際のやり取りのプロトコルを示す。(実施：令和2年11月～12月)

①11月20日(金)【終礼での週番と生徒とのやりとり】

週番：「S1さん、コツの5番『同じことを繰り返しそうになったら止める』(図2)についての振り返りをお願いします。」

S1：「僕は、自分が何をやるか、どんな意見を出すかを考えて行動することが大事だと思います。僕の意見としては、水曜日の1・2時間目の体育と理科の2時間続く移動教室のときに遅れてしまうことが繰り返されてしまっているの、その具体策を考えた方がいいと思います。」

週番：「体育と理科の移動教室で遅れてしまうことについては、何か具体策を考えてみたいと思います。」

②11月20日(金)【終礼後の週番の引継ぎの場面でのやりとり】

司会：「今週の週番の活動を通して反省などを発表してください。」

S2：「今日の終礼での振り返りのときに、水曜日の体育と理科の移動教室のときに遅れてしまうことの具体策を考えた方がいいという意見が出ました。『意識しよう』と声かけは週番が行なっていますが、なかなか改善されないの、解決策をきちんと考えた方がいいと思いました。」

教師：「今、S2さんが、移動教室で遅れてしまうことへの解決策を考えた方がいいという意見がありました。が、なぜ、声かけをしても改善されないのかな？」

S3：「みんなの意識が、まだ低いからです。」

教師：「そうかあ。じゃあ、どうしたらみんなの意識が高くなるのかな？」

S4：「うーん、週番は『早く移動して』と声はかけているけど・・・」

S5：「体育の後、男子が教室で着替えているから、それが終わらないと教室に入れないから荷物を取れない。」

S6：「『2時間目の持ち物は事前に準備しておいて』とか、もっと具体的なことを伝えた方がいいのかな・・・」

教師：「具体的な内容で注意喚起をしていくアイデアは、解決策の一つになるかもしれないね。」

③11月24日(火)【終礼で、翌日の体育と理科の移動教室の遅れを改善する解決策についての提案】

週番：「明日は1・2時間目が体育と理科の移動教室が続きます。先週の振り返りでもあったように、授業に遅れてしまっていて、でもそれが解決されていないので、具体的な解決策を週番で考えました。まず、明日は5分くらいいいので、いつもより少し早く登校して着替えを早く行うようにして1時間目に遅れないようにしましょう。また、女子は着替えにいくときに理科の持ち物を廊下の自分のロッカーに入れておいてください。そうすれば、1時間目が終わった後、男子が教室で着替えていても女子は理科の荷物をもっていけると思います。みんなでお互いに声かけをすることも週番を中心にやっていきたいと思います。」

この3つの過程を経て、11月25日(水)の1・2時間目に学級全体で改善に向けて活動した。終礼の中でも週番から、具体的な内容を伝えたことで状況が改善されたこと、この成功を継続していくことが大切であることが学級に伝えられた。担任の視点から見ても、生徒一人ひとりが意識しなければならないことが明確にされたことで、朝登校してからの生徒の動きもスムーズであった。お互いの声かけも「あと何分で着替えよう」、「理科の荷物はロッカーに忘れずに入れておこう」といった具体的な内容での注意喚起となった。

※ 生徒に振り返ることの必要性や意味を感得させる指導について

生徒が考え創りだしたパターン・ランゲージは、単に創りだすだけではなく、毎日の学校生活の中で常に意識し、活用させることが大切である。その為には、「考えたり、創りだしたりしたものを活用して、その結果自分たちにどんな変化が生まれたのかを考えたり、振り返ったりすることの必要性や意味を生徒に価値づける指導が重要である。その指導は、本実践の前段階のHRH「学級目標について考える」時間に行っている。学級目標を考えるためのクラス全体での話し合いでは、「学級目標は達成できそうなものにすべき」、「『明るい』などは具体性にかけるので、数値化ができないか」といった意見から、「そもそも学級目標とは何なのか」という議論につながっていった。その議論を通して、生徒からは、「小学校の時は、学級目標を決めることだけに満足してしまっていた」、「日常の中で、どれだけ学級目標について皆が意識し思いをもっているか」

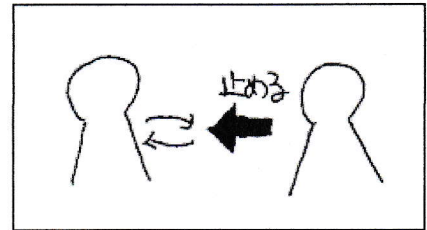


図2：パターン・ランゲージ
「同じことを繰り返しそうになったら止める」

かが大切」という意見があった。クラス全体としてもその意見に納得することができ、学級目標を考えるとこの活動を通して、創りだしたりしたものを利用して、その結果自分たちにどんな変化が生まれたのかを考えたり、振り返ったりすることの必要性や意味に自分たちで気づくことができ、生徒への大きな価値づけの機会となり、本実践の素地となっている。

- (4) (3)で行ってきた継続的なコツの振り返りを踏まえて、コツをより実現していくことができるように、創りだした各パターン・ランゲージ「気持ち良くクラスで過ごす22のコツ」に、その実現のために意識すべき【具体的な行動】を生徒に考えさせ、追記する形でパターン・ランゲージの改良を図った。(図3)さらに、日めくり形式にして教室掲示を行い、日々の学校生活で意識させ、その振り返りを継続的に行った。(実施：令和3年1月～3月)

3 成果と課題

【成果】

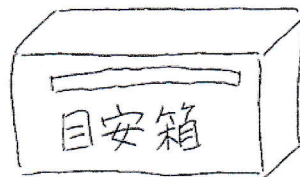
生徒に実施したアンケート調査では、自分たちでパターン・ランゲージを創りだし、それを活用することについて、「みんなで考えたコツだから親しみがあって意識しやすかったし、頑張って振り返られた」という意見があった。自分たちで考えたことを定期的に振り返る活動については、41人中37人(約90%)の生徒がその必要性や意味があると回答した。具体的には、「振り返りをすることで、自分たちが考えたことが正しかったかが分かるから定期的に振り返るのは大事だと思う」、「振り返らないと個人としても全体としても成長できない。この活動は大切である」といった意見が多く見られた。また、「振り返りによって、他の人たちが何を大切にしているのかなどが分かって良いと思う」という他者理解の為にも必要であるといった意見も見られた。

さらに、他者理解に関連付けて、「色々な考えを持った人がいる学級集団の中で生活していくために大切なことは何か」という質問について、41人全員に記述によるアンケート調査を行ない、AIテキストマイニング(図4)、共起ネットワークによる分析を行った。AIテキストマイニング、共起ネットワークの分析から、いろいろな人がいる中で上手くやっていくためには、「妥協し合う」「自己中心的にならない」「相手の立場を自覚」「相手の意見と合わせて」「相手を否定せず」「身を引く」などのキーワードから、同じ空間にいる他者との関わり方が重視されていることが読み取れた。また、「お互いの個性を活かす」「自分の意見を持つことは大切」などのキーワードから、周りに合わせていくときに、個々が持っている個性を活かすことが望ましいということが読み取れた。一方で、いろいろな人がいる中で、自分と価値観の合う人を見つけることも大切と考えている事が読み取れた。

以上のことから、本実践では、生徒の創造的な学び(Creative Learning)であるパターン・ランゲージを創りだし、実際に活用した上で内容を改良する活動、定期的な振り返りを通して、多様な価値観を持った学級という集団の中で、よりよいものを目指しつつも、集団として上手くやっていくために必要なことは何なのかを考えさせ、お互いの個性や価値観を大切にしながらも、新たな課題やその解決方法を生徒自身で見だし実践し、そういった活動を通して他者との接し方について考える機会を教師としてクラスの中に作ることができ、学習指導要領において述べられている資質・能力の育成につなげることができたのではないかと考える。

【課題】

課題としては、創りだしたパターン・ランゲージを厳選すること、運用方法を再考することが挙げられる。生徒自身が創りだしたパターン・ランゲージは、「親しみやすく他者の考えも分かっている」という肯定的な意見とともに、「22個もあったので、忘れてしまうこともあった」という意見も見られた。創りだしたものをより意識させ活用させていくために、例えば、パターン・ランゲージを22個から厳選したり、創りだしたパターン・ランゲージを生徒の成長に合わせて配置したりして、生徒の成長に合わせて普段の学校生活の中で意識させるコツを変えていくといった運用方法についても再考し、引き続き研究をしていきたい。



【具体的な行動】

- ・授業中の話し合いなどに積極的に参加する。
- ・何か意見を言った人が批判されない雰囲気を作る。また、意見がある時は、ためらわずに自分から発信する。

図3：パターン・ランゲージ「自分の意見を言う」(改良版)

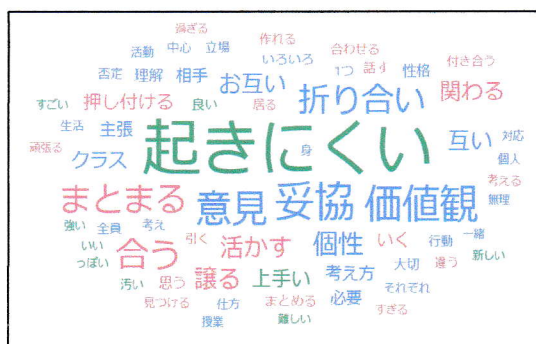


図4：AIテキストマイニング